

「秋のオーロラ (1)」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

オーロラ観望の為に、初めてスウェーデンに渡航したのは 1995 年 12 月である。以来、オーロラの魅力に「憑依」されて、ほぼ毎年のように滞在を繰り返してきた。私が滞在してきたのは、スウェーデン・ノルボッテン州、北緯 67° 付近の北極圏である。このあたりは、オーロラバンドの真下に位置し、秋から春にかけては、晴ればほぼ 100%オーロラが見られる、世界屈指のオーロラ好観望地帯となっている。



オーロラ自動撮影カメラは、北極圏にある小さな鉄道駅の駅舎の窓辺に設置されている。現在、ネットワークカメラ、高感度 CCD カメラ、デジタル一眼レフカメラなど、6 台のカメラが稼働中で、すべて日本から遠隔操作が可能になっている。

実は 4 月に、この駅舎のオーナーが、別の方が変わり、カメラも何か月もストップしたままになっていた。しかし、9 月 9 日にやっと再稼働に成功し、さっそくすばらしいオーロラ画像が届き始めたのだ。



「オーロラの道」ノルボッテン州・ヨックモック郡
2003 年 3 月撮影 C.Tanaka

しかし、旅行者が一週間や十日で、必ずしも上の写真のようなすばらしいオーロラに出会えるとは限らない。そこで、2004 年 12 月に、現地にオーロラ自動撮影カメラを設置することにした。



これが復旧後、最初に届いたオーロラ画像である。手前の手すりがあるところが、駅のプラットフォームである。丸い標識は「乗客がいるので停車してください」という「リクエスト・ストップ・サイン」である。オーロラの左上には「かんむり座」も写っている。秋のオーロラは実に美しい。今後が本当に楽しみだ。



「オーロラカメラを設置した、ポルユス駅舎」